

第4回南牧村小中学校建設検討委員会 議事録

議 事 日 程

令和7年3月21日（金曜日）午後 7時00分開会

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 討 議
 - ①学校の形態について（まとめ）
 - ②建設場所について（グループ討議）
- 4 その他
 - （振り返りカード記入）
- 5 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席者（34名）

会長 中嶋光久

委員 吉澤忠彦 委員 高見澤真紀 委員 菊池丈彦 委員 井出けさお

委員 小川武紀 委員 岡村聡 委員 小池心吾 委員 井出淳一 委員 奥石剛

委員 津金武幸 委員 高見澤眞 委員 吉澤政紀 委員 吉澤登見恵

委員 横森渚 委員 吉澤康代 委員 前田英敬 委員 井出良律 委員 小池孝

委員 菊池実 委員 吉澤克次 委員 渡辺忠一郎 委員 金沢貴徳

委員 井出正尚 委員 横森康幸 委員 河合ゆう 委員 土屋梓

委員 原田雅明 委員 菊池静香 委員 上村弘幸 委員 成瀬豊

委員 高見澤みち子 委員 大笈理良 委員 井出さとみ

委員 吉澤奈津子 委員 荻原右子

オブザーバー

事務局職員出席者

教育委員会 教育長 今井力 次長 津金義秀 指導主事 渡邊元子
主事 宮下真依
総務課 課長 津金初男 課長補佐 廣田啓一

開会 午後 7時00分

◎開会の宣告

○津金教育次長 こんばんは。

時間になりましたので、ただいまから第4回南牧村小中学校建設検討委員会を開会します。
本日の委員会を傍聴される方にお伝えいたします。

傍聴される方は意見を述べることはできません。委員会の録画、録音もできませんのでご承知おきください。

◎あいさつ

○津金教育次長 それでは、中嶋会長から挨拶をお願いします。

○中嶋会長 皆さん、こんばんは。

年度末のお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

先日、3月19日ですが、大雪の中ではありましたが、中学校の卒業式が無事行われました。今年で78回を数えるそうです。今年は戦後80年ということを考えると、南牧中学校の長い歴史と伝統を改めて感じました。その卒業式の生徒会長の答辞で印象的な言葉がありましたので、紹介させてください。さあ、1、2年生の皆さん、先代から僕たちへ、僕たちから皆さんにバトンを渡します。僕たちがつくってきたこの学校をこれから先つないでいってください。失敗と成功を繰り返し、あなたたちにしかつけない最高の学校にしていってください。こんな言葉がありました。この言葉にまさに私たち小中学校建設検討委員会にもつながる言葉だなということを感じました。

今日の議題は一番の課題である建設場所の検討になります。伝統ある南牧小中学校の在り方、子供たちにとって最善の教育環境を満たすためにはどこがいいのか、これからの時代を

見据えたときにどちらのほう合っているのか、次の世代の皆さんにしっかりとバトンをつないでいくための議論を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

○津金教育次長 ありがとうございます。

◎討議

○津金教育次長 討議に移させていただきます。

この後の進行を中嶋会長をお願いいたします。

○中嶋会長 それでは、3. 討議に入ります。

①としまして、学校の形態についてであります。

前回、皆様に討議いただいた結果につきまして、教育委員会事務局より発表させていただきます。よろしくお願いします。

○渡邊指導主事 皆さん、こんばんは。事務局の渡邊です。

前回、ご意見を出していただいたのをまとめましたので、ご説明させていただきます。

まず、表の中に赤字で入れてあるところは、各グループでメモとして残しておいていただいたことや皆様がお帰りのときに出していただいた表の中に書き込んであったことを入れ込んであります。

詳しくはお読みいただければと思いますが、多くの皆さんは子供との関りの幅を広げる工夫をしていくのがいいということが書かれていました。

それから、通学についてですけれども、学校を統合していくに当たっては、通学時間が長くなるので、それに対しては工夫が必要になってきます。教育委員会でも一番遠いであろう平沢からの通学については、もう少し時間が短縮できないかということも検討をしています。

それで、最終的に総括的評価ですけれども、1番の現状については、Cの19人が一番多かったです。それから2番目の小学校のみの統合については、Bの評価27人、ここが一番多い。それから、3番の小中学校の統合については、Aが26人という結果になりました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

今、渡邊さんのほうからご説明ありました（3）小中学校統合が一番多いと、続いて小学校のみの統合が2番目に多いというような順番だそうです。

今、ご説明いただいたところで、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、続きまして、②の建設場所についてのほうに入りたいと思います。

説明を事務局よりお願いいたします。

○今井教育長 皆さん、こんばんは。教育長の今井でございます。

建設の場所につきましては、私からまず説明をさせていただきたいと思います。

着席して説明いたします。

資料は皆様にお配りしているものの3ページからお願いいたします。

ここには、これまでの建設検討委員会で示された南小の敷地、そして中学校周辺ということで表をつくりまして、メリット、デメリットを記載してございます。

まず、南小の敷地について、安全性の面ではメリットとしては自然災害に強いと、デメリットとしては国道に近いがために、これまでもそうですが不審者の声がけですとか、学校敷地への侵入というような心配があるということでございます。

安全性の中学校周辺ですが、全村からのスクールバス通学ということになりますので、メリットではないかと。その先で説明をいたしますが、中学校周辺に仮に学校を建設する場合には、造成により千曲川沿いの集落の避難場所としても利用できるんじゃないかなということがメリットとして上げられるんじゃないかと。一方、デメリットですが、これは長野県が中学校周辺が土砂災害警戒区域に指定してございます。また、河川浸水想定区域にもなっております。

そして、経費については後ほど説明いたします。

教育的環境でございますけれども、南小の敷地については、やはりメリットとしては平たんで広い学校敷地ということが上げられます。また、雄大な八ヶ岳のロケーションが望めると。もし、南小敷地への建設の場合には、統合までの時間が短縮できるということです。一方、デメリットでは、教職員の方が佐久市から通勤が大変困難だと、そのために20代の若い先生に学校がなりがち、配置がなりがちということです。また、駅、村役場、郵便局に遠いということです。そのほかにもデメリットはございますが、お読みください。

また、中学校周辺のメリットと思われますと、山あいにあるために比較的穏やかな気候であると。また、駅、村役場、郵便局に近い。そして、教職員については、佐久市からの通勤が可能であると、そのために幅広い年齢層の教師をそろえやすい。また、地域部活動への連携がしやすいということです。デメリットとしては、やはり山あいにあるために敷地が狭いですとか、地形が変形であるとか、そのほかには屋内スケート場、帝産スケート場への距離

が遠いですとか、統合までに時間が南小敷地よりもかかるということが上げられます。

通学時間ですが、このようになっておりまして、通学時間については4ページをご覧ください。

南小敷地へ建設した場合、中学校周辺へ建設した場合のそれぞれの集落からの距離と時間を示してございます。

南小敷地の場合ですと、平沢から南小の敷地まで12分、また一方の遠いところだと、海尻ですと約20分かかるといことです。一方、中学校、タイトル、すみません敷地でなく周辺といことです。中学校ですと、平沢地区は約26分、海尻地区ですと約6分程度といことになります。

次のページをお開きください。

5ページ目、こちらはハザードマップを拡大してございます。ハザードマップ、板橋、野辺山地区、南小周辺には、危険な区域は存在しておりません。一方、5ページの右側に防災ハザードマップの海ノ口の河川浸水想定区域がありますが、こちらは南牧中学校が想定区域内に入っております。これは1,000年に一度の確立で起こる洪水時を想定しているといことです。数年前に台風19号で長野市の河川堤防が決壊しましたが、あれが200年から300年に一度の災害といことと言われております。

次のページ、6ページをご覧ください。

こちらは土砂災害の危険区域を示したハザードマップになります。

左側に南牧中学校の位置を示してございますけれども、やはりこちらは土砂災害の危険地域、そして特別危険地域といことで指定されていまして、土砂災害の危険区域について若干説明しますが、傾斜度が30度以上で、高さが5メートル以上あるものは全て該当になってしまうといことになっております。

それ以上に、今度は特別警戒区域については、例えばもし災害が遭った場合、土砂が崩壊した場合に、土砂の力で建物が損壊するおそれがある場合には、特別警戒区域といことで指定されるそうでございます。

それでは、7ページをお開きください。

これは南小学校の敷地に例えば小中一貫型の学校、または義務教育学校を建設した場合を校舎を落としてみました。約、今の南牧村の生徒数から推定すると3,800平米ほどの校舎が必要になると思います。幅25メートル、長さ150メートルでつくっておりますけれども、こういう形で入ってくるのかなというふうに思っています。

ただ、皆様ご承知のとおり、校舎の上側の部分ですとか、右側の部分は地図混乱地ということで、土地の取得ができない状況でございます。

続いて、８ページ、これは南牧村教育委員会で考えて、案をつくったものでございますのでよろしくお願いいたします。

1,055メートルが河川、ハザードマップ上の河川浸水区域の高さが1,054メートルです。そのために災害を逃れるために1,057メートルの位置で、例えば中学校の裏山を造成して造った場合には、これだけの土地が確保できると。ピンク色の部分は平らな部分です。黄色い部分は傾坂、土手となる部分です。裏山を切りまして、中央公民館の横に北小学校へ延びる道がありますけれども、そこまで造成、埋め土した場合のものです。

次のページをご覧ください。

９ページ、これが横から見たものです。左側に中央公民館の建物の図が示してあります。水色のラインが洪水の浸水区域の高さです。1,054メートルで、1,057メートルに赤いラインがありますが、ここの高さに造成したらどうかというような一つの案です。

10ページをご覧ください。

10ページの左側、中学校へ行かれた方は校舎のおおむねの配置は分かるかと思いますが、中学校の一番奥の教室棟、要は理科室ですとか、音楽室がある棟ですが、そちらの棟の地面の高さがほぼ洪水の浸水想定区域の高さになります。また、黄色い破線で示していますが、こちら側が土砂災害警戒区域のラインになっていきます。一方、右側を見てください。赤い線で示していますが、ほぼほぼ公民館の高さより若干高いぐらいが、もし造成する場合の高さ、1,057メートルになります。こういった形で例えば山を切ってしまうて造成するということになるんじゃないかというふうに思っております。

それでは、先ほどの３ページにお戻りください。

経費という部分をご覧になっていただきたいんですが、南小の跡地については、ほぼ造成等の費用はございません。もし、建築する場合には取壊しの費用がかかってくるというふうに思うんですが、それについてはまだお示しはしません。一方、中学校周辺の造成については、約９億円、造成工事に8,000万円、用地購入費に８億円、用地購入費に5,000万円、補償移転費、中央公民館の裏に携帯電話の中継局等ありますから、こういったものの等の補償移転で3,000万円、その他費用で2,000万円ということで、合計９億円ということで算出をいたしました。

この後、皆様にグループ討議をしていただきますが、討議、いろいろと討議していただく

前提としては、欄の上にありますビジョンということで、やはり南牧村の学校建設に当たって、地域みんなで育てる、そして大人も学ぶ、共学び、共育ちの村をつくるということで、このビジョンにふさわしい学校にするためには場所はどちらがいいのか、どうしたらいいのかということで考えていただきたいと思います。

地域の人と一緒に子供を育てていけるような場所、または人口減少の中で意図的に人と関われる学習の場づくり、そして子供支援の拠点化ということと、あと教員不足に備えて、要は人手不足に備えてということで、検討してみていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○中嶋会長 ありがとうございます。

今、教育長のほうから少しイメージしやすいということで、大分資料を整えていただいているんですが、今の説明の中で、これからグループワークに入りますが、皆さんのほうからちょっとここどうなんだというようなところ、ご質問等ありましたらこの場で受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 中学校の周辺で造成費に9億円ってあるんですけども、今、どっちかにするか検討する中で、9億円というのがネックにならないのか。9億円が捻出できないよという話になると、もう1つしかないのかなというところはあるんですが、その辺はどうなんでしょうか。

○中嶋会長 少々お待ちください。

○今井教育長 学校を造る場合は文部科学省、国からの建設のための交付金とか、またはそういった借入れを起こせる起債制度のお金があるんですけども、もし造成の費用の9億円というものは何か国の防災対策のそういったお金、補助金があればそれを使いたいと思います。

もし、それがなければ、起債制度、起債ということで借入れを起こして、一般市中から借入れを起こして、それで毎年少しずつ返していくと。基本的に起債の場合には40年償還だそうです、40年。9億円借りて40年というのと、1年に2,250万円、これを少しずつ返していく。

本当はちゃんと国の助成制度のある起債ということで借入れを起こせば、例えば9億円借りたうちでも実質4億5,000万円くらいしか返さなくてもいいというような制度はあるんですが、全くそういう国の支援のない借入れを起こした場合には、9億円という金額を40年かけて返済する。だから、1年に約2,300万円ぐらいずつ返していくということなので、全く可能ではないというふうに考えています。

○中嶋会長 よろしいでしょうか。

ほかに、グループワークしていただく上で、ちょっとここ確認したいというところがござ

いましたら。

よろしいでしょうか。

では、グループワークのほうに入っていきたいと思います。

時間につきましては、20分取りたいと思いますが、時間につきましては、あちらの時計で8時までグループ討議をしていただきたいと思います。いつものようにコーディネーターの皆さんに進行をお任せしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、始めてください。よろしくお願いいたします。

(グループ別に意見交換)

○中嶋会長 すみません、まだ盛んに意見交換されているようですが、そろそろ意見のほう、各グループの意見を聞いてまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

Aグループ、大丈夫。いいですか。

すみません、じゃAグループのほうからお願いいたします。

○委員 すみません、Aグループです。

いろんな意見が出ました。南小のところなのか、中学校なのか、それぞれいろんな問題はあるんですけども、多分皆さん、それぞれ出てくるのはあまり変わらないかなというふうに思うんですが、今、最後のほうで出てきたところだけまとめてみようかなと思うんですけども、保育園の保護者の方とか、今、小学校に出している方々が、本当に今すぐに始めてほしいって思っている方がたくさんいるという意見がありました。

実際に造成したりとか、校舎を建てたりとかということに時間がかかるのであれば、取りあえず小学校だけでも一緒に学ぶことをやれるんじゃないかという、分からないですけども、1学期、2学期途中までは南小、ちょっと寒くなってきたところから北小とか、そんな感じで、とにかく一緒に学び合うことで、バスなども出すことになると思うので、そのときに実際に運行してみたときに、こういう問題があるんだね、じゃこういうふうにしていかなきゃいけないねって、実際に学校が立ち上がる前にいろんな問題も浮かび上がって、よりスムーズに統合なり、義務教育学校ということにつなげていくことができるんじゃないだろうかという意見が出ました。

それと、先日、中学生が発表してくれましたけれども、とても本当によかったという意見がありました。そして、私たち今、大人の都合というか、大人の考え方でこういうことをやっていったらいいんじゃないかと考えていますけれども、実際の子供たちがどういうふうに今、考えているのかということをは何かの形でちょっとくみ上げることができたら、い

いんじゃないかという意見が出ました。メリット、デメリット、多分皆さんと同じようなところが出ていると思うので、私たちはここだけにさせていただきます。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、Bグループのほうお願いしたいんですが、紙に書いてあるところは省略していただきたいと思います。それから、前に出たところが重複して意見としてあるようでしたら、そこも省略していただいてお願いしたいかと思います。

では、Bグループ、よろしくお願いします。

○委員 Bグループでは、通学時間に関しては、どちらに行くとしても、結局時間的に遠いところから来る時間は変わらないんじゃないかということで、これは議論はあまり出ませんでした。

また、地域の人々も共に参加できるような環境を整えるということが大事じゃないかというところが出ました。

それと、あと教職員の問題が大変議論に出まして、やはり中部横断道も考えて、これから時間も短縮になるんですが、やはり佐久市から通ってこられたりする先生方には、大変負担が大きいこともあるんじゃないかということも出てまいりました。

また、山を削るということに対する多少の抵抗もあるという意見も結構ありました。

それと、最後に市場付近に新しい土地を探してみたらどうだという、そんな意見もありました。

あとは、ここに載っている、それとあと、経費の問題には、できるだけ経費をかけないで、子供たちの使用するものにお金をかけてもらいたいと、そういう意見が出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

じゃ、続けてCグループ、よろしくお願いします。

○委員 では、Cグループお願いします。

結論的に、結論的にというか、Cグループで多かったのは、中学校周辺です。幾つか理由があります。

1つ目、部活の南佐久で今、地域移行、部活やっているんですけども、その拠点校として中学校、今の中学校のある場所、大きな体育館ができたとして、そちらのほうが拠点校になり得るといえるのか、なりやすいということでもあります。

2点目、今のあるいろいろな施設等を考えたときに、中学校周辺のほうがいろいろな人と

近いですし、関われる、関わりやすいのではないかとということ。

3つ目、造成に対する費用が先ほど出ましたけれども、それだけではなくて、避難場所になったりとかという、そういった造成による学校建設以外のメリットもあるのではないかとということで、そこら辺が割とCグループでは皆さん納得されている意見だったかなというふうに思いますし、とにかくやはりスピードというか、とにかくどちらでもいいけれども、とにかく早く、子供たちのために早くというそういったご意見があったことを付け加えさせていただきます。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。具体的に中学校周辺がいいんじゃないかというご意見が多かったということですね。

では、Dグループよろしくお願いします。

○委員 Dグループ、お願いします。

Dグループは、Cグループとまた逆で、南小の辺がいいんじゃないかという意見が中心だったかなというふうに思います。

第1としては、やっぱり災害の危険な地域というところに学校というものというのではなくて、そういった安全面を考えていただいて、学校の場所というのはそうしていただけたらなというご意見がありました。

2つ目に、人口減になっていくに当たって、お金の問題というのが補助金とかいろいろあるかもしれないけれども、毎年ずつ返済していくというのが、下の世代のほうに結局負担になっていくことになってしまったら、子供たちのためにというふうに思っているものがよくないのではないかなということと。あとは、その分のお金はやっぱり学校の施設とかそういうところに回すような形で、お金というのは使ってもらえたらななんていうことがありました。

それから、そういった施設というのは子供たちや職員の方が勤めたい、そういった魅力のある、通いたいなという学校施設をぜひつくってもらえたらなという意見が出ました。

あとは、どこのグループとも同じなんですが、とにかくスピードが大事なかと。前回の統合のときに、もしうまく行っていれば、今より大分少ない予算で学校も建てられたんじゃないかと。これがまたうまく行かなくて、また5年度、10年後となると、人件費や資材費も上がってきたりすると、もっとお金がかかってしまうんじゃないかななんていう心配もあるかなということでもあります。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。Dグループは南小のほうがいいんじゃないかというようなことでした。

では、Eグループ、お願いいたします。

○委員 それでは、Eグループですけれども、どちらの立地でもそれぞれよさあるというところで、それぞれ上げていただきました。

南小区でいきますと、日本一標高高い場所ですとか、立地が開けていて、造成費がないというところ、魅力があるということです。

あと、出てこなかった北小のほう、現在の中学校区のほうにいきますと、やはり今の公民館、役場はじめ、中央施設があるというよさや、今日初めてほかで出てこなかったところでは、北相木村、南相木村の子たちも将来的に一緒にという可能性も広がるがあります。ということで、どこにもよさがある、どちらもよさがある。

あと、先生方を招くには、やはり南小区にいったときに、住宅の設備が大事だなと。とにかく今、決まらないところで、いろいろ校舎の中も苦しい状況にある。早く決まるといいなという思いでいます。早く決めてほしい、どうやって決めるのかなというところです。

最終的に、これから子供も減っていくことも考え、これから村の中でも、村に来てほしい人たちを増やせる、そういう政策、ウェルカムという言葉もいただきましたけれども、受け入れる体制づくりをして、そして南牧村に大勢の人が来てくれる魅力ある村づくり、そして学校づくりというところで、終結したところであります。

早く決まるといいなということを思いました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

他村の子供たちの交流とかという、その辺のところまで意見が出たということですかね。

各グループ発表ありがとうございました。

どこにしても一長一短あるということと、とにかくスピード感をもって進めてほしいということだったと思います。また次回も引き続き場所の討議ということで聞いておりますので、今日の意見を再度まとめていただきながら、次、どのようにまた進めていくかというところをまた検討してまいりたいというふうな形になろうかと思います。

ありがとうございました。

それでは、お手元に第4回振り返りカードがありますので、こちらのほうに、また1、2

とありますけれども、学校の建設場所について、グループ討議で言えなかったことがありますしたら、ご記入くださいということと、その他ご意見ありましたらご記入くださいということで、こちらのほうをまとめていただきたいと思います。

数分取りますので、ご記入いただきたいと思います。

(振り返りカード記入)

○中嶋会長 全体を通して何かご意見、ご質問等ありましたらお願いしたいかと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、すみません、最後に教育委員会のほうからお知らせがあります。

少しお時間ください。よろしくお願いします。

○今井教育長 それでは、慎重な討議ありがとうございました。

教育委員会から1つお願いがございます。年度末を迎えまして、これまで各学校のPTA役員さんの任期が変わりまして、新しい方へバトンタッチという時期でございますけれども、ここにお集まりの委員の皆様につきましては、4月以降も引き続きこちらの建設検討委員会の委員として、話合いのほうに加わっていただきたいと思います。長い時間をかけて結論を出すという考えはございませんので、いましばらくの時間ですけれども、ぜひ委員としてお務めいただきたいと思います。

そのお願いでございます。よろしくお願いいたします。

○中嶋会長 時期的にはいつぐらいまでとかってあるんですか。

○今井教育長 時期的には、先日議会の中でもいろいろな質問ございましたけれども、ひとまず5月末までには最終的に終わりにしたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。できるだけ早い時期に結論を出したいと思っております。よろしくお願いします。

○中嶋会長 ありがとうございます。

というわけで5月末ぐらいまで、皆さんにこのまままた引き続きお願いしたいというお話でした。よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の討議が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。

◎その他

○津金教育次長 本日出していただいた委員の皆さんの意見をまとめて、第5回委員会までに送付いたします。

次回は4月10日木曜日、午後7時から、第5回建設検討委員会を開催する予定です。

振り返りカードは出口の箱に入れてください。また、名札も出口にお返してください。

本日、傍聴に見えられた皆様、今回もまた関心を持ってお集まりいただきありがとうございました。

◎閉会の宣告

○津金教育次長 以上で第4回南牧村小中学校建設検討委員会を閉会いたします。

皆様、お疲れさまでした。

閉会 午後 8時23分